

60分でわかる旧約聖書(37) 「ハガイ書」

1. はじめに

(1) ハガイ書の位置づけ

①大預言書 (the Major Prophets)

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書 (the Minor Prophets)

*ホセア書からマラキ書までの12書。

③ハガイ書は、捕囚期後預言書(3)のひとつである。

(2) 預言者ハガイ

Hag 1:1 **ダリヨス王の第二年の第六の月の一日に、預言者ハガイを通して、シェアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアとに、次のような【主】のことばがあった。**

①ハガイは、ユダで活動した預言者(活動期間は3~4カ月)。

②彼の系図は記されていないので、父親の名は不明である。

③「ハガイ」という名は、ヘブル語の「祭り(ハグ)」から来たものである。

④彼は、ゼカリヤと同時代の預言者(捕囚期後の最初の預言者)である。

⑤彼に【主】のことばが下ったのは、「ダリヨス王の第二年の第六の月の一日」。

*これは、前520年に当たる。

(3) 時代背景

①ペルシヤの王クロスは、前538年に勅令を出し、すべての民が故国に帰還することを許可した。

②ユダヤ人にもエルサレムへの帰還と、神殿再建が許可された(エズ1:2~4、6:3~5)。

③総督ゼルバベルに率いられて帰還した約5万人は、神殿の再建を開始した。

④基礎は2年後に完成したが、サマリヤ人と周辺民族の妨害で工事は中断。

⑤その状態がダリヨス大王の代まで続いた(エズ4:1~5、24)。

⑥ハガイとゼカリヤが活動を開始したのは、ダリヨスの第2年目(前520年)。

(4) ハガイ書の内容

①旧約聖書の中で、オバデヤ書に続いて短い(2章しかない)。

②工事が進まないのは、外部に敵がいるからではなく、内部に問題があるから。

③ハガイ書の強調点の一つは、「【主】が語られた」という点である。

④ハガイ書の主要テーマは、「先延ばしにすることの危険性」である。

2. アウトライン

- I. メッセージ 1（1：2～15）：神殿再建の呼びかけ
- II. メッセージ 2（2：1～9）：将来の栄光の約束
- III. メッセージ 3（2：10～19）：汚れた民に下る祝福の約束
- IV. メッセージ 4（2：20～23）：ゼルバベルに下る祝福の約束

ハガイ書の4つのメッセージについて学ぶ。

I. メッセージ 1（1：2～15）：神殿再建の呼びかけ

1. 神の時はまだ来ない。

Hag 1:2 「万軍の【主】はこう仰せられる。この民は、【主】の宮を建てる時はまだ来ない、と言っている。」

(1) 「万軍の【主】」という御名は、ハガイ、ゼカリヤ、マラキの3人の預言者が好んで使ったものである（3人の合計90回以上）。

①この御名は、神の全能の力を示している。

(2) イスラエルを「わたしの民」ではなく、「この民」と呼ばれている。

①ホセ1：9参照

②民の罪とは、「【主】の宮を建てる時はまだ来ない」と言っていること。

③先延ばしの理由は、延々と続く。

2. 民の罪

Hag 1:4 「この宮が廃墟となっているのに、あなたがだけが板張りの家に住むべき時であらうか。」

(1) これは修辞疑問文（答えを必要としない当然の事項）である。

①「板張り」というのは、神殿の内装である。

②15年前に神殿のために用意した杉材を、自分の家に用いていたのであろう。

③民の問題は、優先順位が逆転していたことにある。

(2) 過去15年の不作為（神殿建設の先延ばし）がもたらした裁き

①収穫が少ないこと

②食糧が不十分であること

③ぶどう酒が不足していること

④衣服が不足していること

⑤労働が空しくなっていること

⑥この呪いの背後には、神とイスラエルの契約関係が存在している。

*申命記 28:38~40。神に背くなら、呪いを受けることになる。

3. 罪の治療法

Hag 1:8 山に登り、木を運んで来て、宮を建てよ。そうすれば、わたしはそれを喜び、わたしの栄光を現そう。【主】は仰せられる。

(1) 罪の治療法が、3つの動詞(命令形)で示される。

①「山に登り、木を運んで来て、宮を建てよ」

②杉材は、すでに使用されていたので、山から材木を調達する必要があった。

(2) 【主】の命令に忠実に従うなら、祝福が約束される。

①「わたしはそれを喜び、わたしの栄光を現そう」

4. 民の応答

Hag 1:12 そこで、シェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアと、民のすべての残りの者とは、彼らの神、【主】の御声と、また、彼らの神、【主】が遣わされた預言者ハガイのことばとに聞き従った。民は【主】の前で恐れた。

(1) まず指導者たちが、ハガイの語る内容に積極的に応答した。

①ゼルバベルは政治的指導者。

②ヨシュアは宗教的指導者。

(2) 次に、「民のすべての残りの者」が同じように積極的に応答した。

①「残りの者」という言葉は、少数の真の信仰者を指す場合がある。

②ハガイ書では、単に「残された少数者」の意味である。

(3) 【主】は、民の積極的応答を喜ばれた。

①「わたしは、あなたがたとともにいる」

②ここには、「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます」(ヤコ4:8a)という原則がある。

(4) ついに民は、神殿再建の仕事に取りかかった。

①ハガイの最初のメッセージから23日後に、民は行動を起こした。

②ハガイのように短時間で民を動かした預言者は、稀である。

③その背後には、聖霊の働きがあった。

II. メッセージ2(2:1~9) : 将来の栄光の約束

1. 第2のメッセージは、民が神殿再建に着手してから3週間半後にやって来た。

Hag 2:1 **ダリヨス王の第二年の第七の月の二十一日に、預言者ハガイを通して、次のような【主】のことばがあった。**

(1) 「**第7の月の21日**」は、仮庵の祭りの最終日である。

①収穫を祝う祭りであるが、収穫が乏しいので、民の心は沈んでいた。

2. 3つの質問

(1) ソロモンの神殿を見た者はだれか。

①神殿が破壊されたのは前586年。再建が、66年後(前520年)に始まった。

②つまり、70歳以上の老人ならソロモンの神殿を見たことがある。

(2) その生き残りの者たちは、再建途上の神殿をどう見ているのか。

(3) あなたがたの目には、まるで無いに等しいのではないか。

①致命的だったのは、契約の箱がなかったことである。

3. 【主】からの励ましのことば

Hag 2:4 **しかし、ゼルバベルよ、今、強くあれ。——【主】の御告げ——エホツァダクの子、大祭司ヨシュアよ。強くあれ。この国のすべての民よ。強くあれ。——【主】の御告げ——仕事に取りかかれ。わたしがあなたがたとともにいるからだ。——万軍の【主】の御告げ——**

(1) 「強くあれ」という励まし

①約束の地に入るヨシュアが受けたもの(申31:7、ヨシ1:6~7、9、18)。

②神殿建設の際にソロモンがダビデから受けたもの(1歴28:20)。

(2) 「仕事に取りかかれ」という命令

①神殿建設の作業を延期するな。

②「わたしがあなたがたとともにいる」という約束が伴っている。

(3) 過去の祝福を覚えよ。

①シナイ契約の祝福がある。

②【主】は、民を罰するためにバビロン捕囚が起こることを許された。

③しかし、イスラエルが「宝の民」、「祭司の王国」、「聖なる国民」(出19:5~6)であるという事実は変わらない。

(4) 将来の祝福(メシア的王国)を覚えよ。

①民は、この神殿が貧弱なものであることを嘆いているが、千年王国の神殿は、豪華に飾られたものとなる。

②なぜなら、諸国の民が宝物をもたらすからである。

(5) この宮の後の栄光

Hag 2:9 この宮のこれから後の栄光は、先のものよりまさろう。万軍の【主】は仰せられる。わたしはまた、この所に平和を与える。——万軍の【主】の御告げ——

す。銀も金も、【主】のものです。

①この預言は、メシアであるイエスが神殿の中に来られた時に成就した。

②イエスは「平和の君」である(イザ9:6)。

③イエスは初臨において霊的平和をもたらし、再臨において肉体的平和をもたらされる。

Ⅲ. メッセージ3(2:10~19) : 汚れた民に下る祝福の約束

1. これは、第2のメッセージの約2カ月後、工事着手の3カ月後に語られた。

(1) この年の収穫は、不作であった。

①民の疑問は、神殿再建に着手したのに、なぜ不作に終わったのかということ。

②そこで【主】は、ハガイを通して、なぜ収穫が少ないのかを説明される。

2. 2つの質問

(1) 聖なる肉を運んでいる着物のすそが他の食物に触れたとしたら、その聖は転移するか。

①祭司たちは、「否」と答えた。

②これは正解である。聖は転移しない。

(2) もし死体によって汚れた人が、何かに触れたら、それは汚れるか。

①祭司たちは、「汚れる」と言った。

②これもまた正解である。汚れは転移する。

3. 適用

(1) イスラエルは神の民でありながら、異邦人のようであった(過去15年間)。

①イスラエルの民の汚れは、神にささげる物に転移している。

②神が求めておられるのは、形式ではなく、心からの信頼である。

(2) しかし、翌年の収穫は大いに祝される。

- ①その理由は、この3カ月間で民が【主】への信頼を表明したからである。
- ②民の霊的状态と、畑の収穫物の状態とが相関関係にあることに注目しよう。

IV. メッセージ4(2:20~23) : ゼルバベルに下る祝福の約束

1. 第3と第4のメッセージは、同じ日に与えられた。

(1) 第4のメッセージは、ゼルバベルのみに語られている。

Hag 2:21 「ユダの総督ゼルバベルに次のように言え。わたしは天と地とを揺り動かし、

Hag 2:22 もろもろの王国の王座をくつがえし、異邦の民の王国の力を滅ぼし、戦車と、それに乗る者をくつがえす。馬と騎兵は彼ら仲間同士の剣によって倒れる。

- ①「天と地を揺り動かし」は、メシア的王国の前の大患難時代を預言したもの。
- ②この時、反キリストは破れ、反キリストの軍勢は倒される。
 - *ハルマゲドンの戦いにおいて、このことが成就する。
- ③ゼルバベルは、印形のようにされる。
 - *公文書のサインに用いた「王の印」、「権威の印」である。
 - *王の印形は、王自身がその指にはめており、王から離れることはない。
 - *印形のように、神はゼルバベルを特別に扱い、彼から離れることはない。

結論

1. 罪人は、どうしたらできるかではなく、できないことの原因を考える。

(1) この時期のイスラエルの民と同じように、私たちもまた失敗の言い訳をしたり、先延ばしの口実を設けたりする者である。

(2) そのような優柔不断と先延ばしの姿勢からは、良い結果は生まれて来ない。

2. 今はどういう時か。

(1) イエスは弟子たちにこう言われた。

Joh 4:35 あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある』と言ってはいませんか。さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れのばかりになっています。